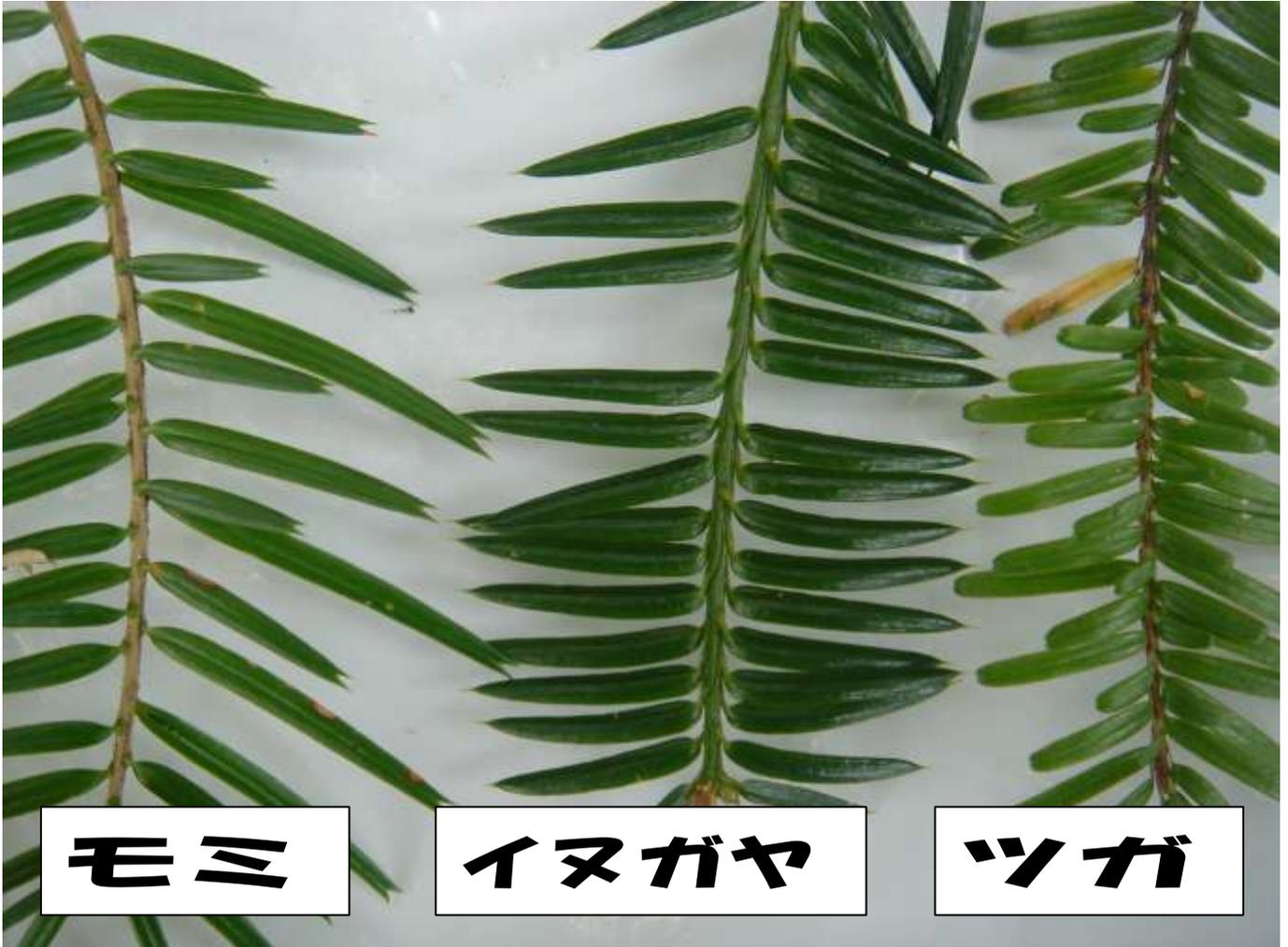


花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成27年3月6日 NO.94 (194)



モミ

イヌガヤ

ツガ

オー君 「あれあれ？何だ、こりゃ？」

花ちゃん 「ははーん。なるほど。今日は、針葉樹のお話というわけですね。モンタ博士！」

モンタ博士 「ピンポーン。そのとおり。今日はね、針葉樹のお話さ。」

オー君 「な、な、何だよ。そのしん・・・なんとかって・・・何だ？」

花ちゃん 「あれあれ、忘れちゃったの。オー君。葉っぱが細長くて、針のよう葉っぱをつける木を針葉樹というのよ。」

オー君 「あ！ぼく、思い出した。マツとか、スギなんかも針葉樹というんだよね。

でも、ちょっと待てよ。そんじゃ、ふつうの葉っぱは何ていうんだ。」

モンタ博士 「ほほー。なるほど。いい質問だ。花ちゃん。知ってるかな。」

花ちゃん 「ええっと・・・ふつうの葉っぱは・・・落葉樹？いや、ちがうわ。常緑樹？
いや、これもちがうか・・・あー・・・。何だかわからなくなっちゃった。」

モンタ博士 「そうだね。それじゃ、今からきちんと整理しようね。」

花ちゃん 「葉っぱの復習ということですね。」

オー君 「うん。そうだ。そうだ。復習しよう。針葉樹でない葉っぱを何ていうかだったよね。」

モンタ博士 「まず、針葉樹というのは、針のように細いからだね。一番の代表はマツだね。
マツはみんなも見たことがあるよね。マツの葉っぱは本当に針のようだね。
それに対しての葉っぱが広いものを広葉樹というのさ。つまり、葉っぱの形
についてのよび方だね。」

オー君 「落葉樹とか常緑樹というのは・・・？」

モンタ博士 「まず、落葉樹というのは、漢字を見てもわかると思うけど、冬になると、葉っぱを落としてしまう木だね。それに対して常緑樹というのは、常という漢字があるけど、その意味は「いつも」ということだ。だから、いつも緑色で冬でも葉っぱをつけているということさ。つまり、ケヤキやサクラやクヌギは落葉樹で、ツバキやカシの木は常緑樹というのさ。マツも常緑樹さ。」

花ちゃん 「わかりました。わかりました。これでやっと整理ができました。」

オー君 「よかったね。花ちゃん。」

モンタ博士 「あ！ところで、言い忘れたけど、左の写真にもあるモミ・イヌガヤ・ツガは、裸子植物ともいうんだよ。」

オー君 「え！裸子植物？何だそりゃ？今日は、いろいろな植物の言葉が出てくるな。」

花ちゃん 「またまた聞いたことのない名前ですね。」

オー君 「針葉樹と広葉樹のほかにもまだあるの。」

花ちゃん 「落葉樹と常緑樹のほかにもまだあるの。」

モンタ博士 「裸子植物の『裸』とは『ら』と読み、『はだか』というなんだ。」

オー君 「モンタ博士、何がはだかなんですか。」

モンタ博士 「つまりね、はだかとはね、子房がはだかでむきだしになっているんだ。反対に子房が被っているのを被子植物というけど、このお話はまたそのうちね。」